思いを創造に Cause Related Innovation

「やりたいこと」を未来社会の価値に位置づける 企業ブランドカを強化する『SONOSAKI PLANNING(TM) 3.0』

サステナブル・イノベーションズ株式会社 代表取締役社長 池邊 純一 初版 2018.10.3

目次



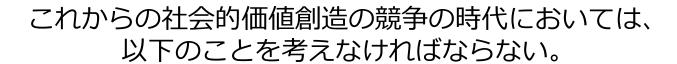
- 1. 時代背景と基本コンセプト
 - 2. 基本コンセプトを実現するツール
 - A) 「本当にやりたいこと」の分析
 - B) イノベーションの観点体系
 - C) Business Knowledge Network (知識ベース)
 - D) 思いから創造する未来社会の価値への変換
 - E) 未来社会の価値創造プロセスのデザイン(社会的価値ネットワーク分析)
 - F) イノベーションへのストーリー作成支援アプリ
 - 3. 特徵
 - 4. メリット



世の中は 社会的価値創造の競争の時代 に入ってきている

- 多くの企業はビジネスの視点から社会的課題を解決しようと取り 組んでいる
- ベンチャー企業も新しい技術で未来を切り開こうとしている

これまでは、顧客はどんな商品を求めているか、どうしたら売れるかをマーケティングの手法を 用いて分析し、市場における競争戦略を考えればよかった時代だった。



- 顧客はどのような社会的課題の解決方法に関心があるか
- どんな未来社会を夢見ているか



- 1. 多くの企業は社会に対する思いをビジョンとして掲げている
- 2. 現実のビジネスにおいては市場性や収益性を配慮して、目の前の業務に対応することばかりに思考が集中している
- 3. 社会的価値創造の競争の時代には、市場性や収益性の前提として社会性にも配慮し、競合他社よりも知恵を凝らした取り組みが必要になる
- 4. 企業が手掛けている事業分野によっては創造しうる社会的価値にも制約が生じてしまう
- 5. 多様化する社会にあって創造すべき社会的価値の領域は業界の領域を越えた 発想への転換も必要になる
- 6. 社会的価値創造の競争に勝ち残る企業には社会の関心が集まり、企業のブランド価値も高まる
- 7. 高いブランド価値を構築している企業には市場性と収益性が期待されるようになる
- 8. どんな成功モデルも永久の成功を約束するものではない
- 9. 社会的価値を創造する企業は、常に、未来社会に向けた社会的価値の創造を目指していかなければならない



社会的価値創造の競争に勝ち残っていくためには 乗り越えるべき2つの課題がある

1. 企業の社会に対する思いの社会的価値を明確にすること

これまでのマーケティングの考え方では、市場を細分化し標的市場を決めて商品をポジショニングしてきたが、同様に「社会に対する思い」の中に「社会的価値」を見出していくためには、「社会に対する思い」を深掘りして明確なものとして描き出さなければならない

2. 未来社会に向けた価値創造を構想すること

マーケットインの発想は顧客の視点で考えることから始まる。未来社会に向けた社会的価値の創造を目指していくためには、実現されていく「未来社会」に視座した「多様化する社会にあって創造すべき社会的価値」の視点からものごとを考えなければならない。



社会的価値創造の競争に勝ち残っていく上での2つの課題を解決する

- 1. 「本当にやりたいこと」の社会的価値を明確にする
 - 現実のビジネス (Real world) と思い (world of Mind) を様々な視点 (View) から分析する
 - 今のビジネスだけでなく、自分自身の生き方、社会のあり様へと視野を広げて深 掘りしていく
 - これは、これまでのマーケティングの考え方の細分化と標的市場の選択に相当する
- 2. 「未来社会の価値創造」を構想する
 - 「本当にやりたいこと」の社会的価値を「未来社会の価値創造」として、社会の 趨勢や技術革新の動向の中に位置づけていく
 - これは、これまでのマーケティングの考え方のポジショニングに相当する



- 1. 時代背景と基本コンセプト
- 2. 基本コンセプトを実現するツール
 - A) 「本当にやりたいこと」の分析
 - B) イノベーションの観点体系
 - C) Business Knowledge Network (知識ベース)
 - D) 思いから創造する未来社会の価値への変換
 - E) 未来社会の価値創造プロセスのデザイン(社会的価値ネットワーク分析)
 - F) イノベーションへのストーリー作成支援アプリ
 - 3. 特徵
 - 4. メリット



基本コンセプトに基づいて「やりたいこと」を「未来社会の価値創造」に位置づける思考過程を以下のツールによって実現する

「本当にやりたいこと」の分析 Real world - View -world of Mind Analysis

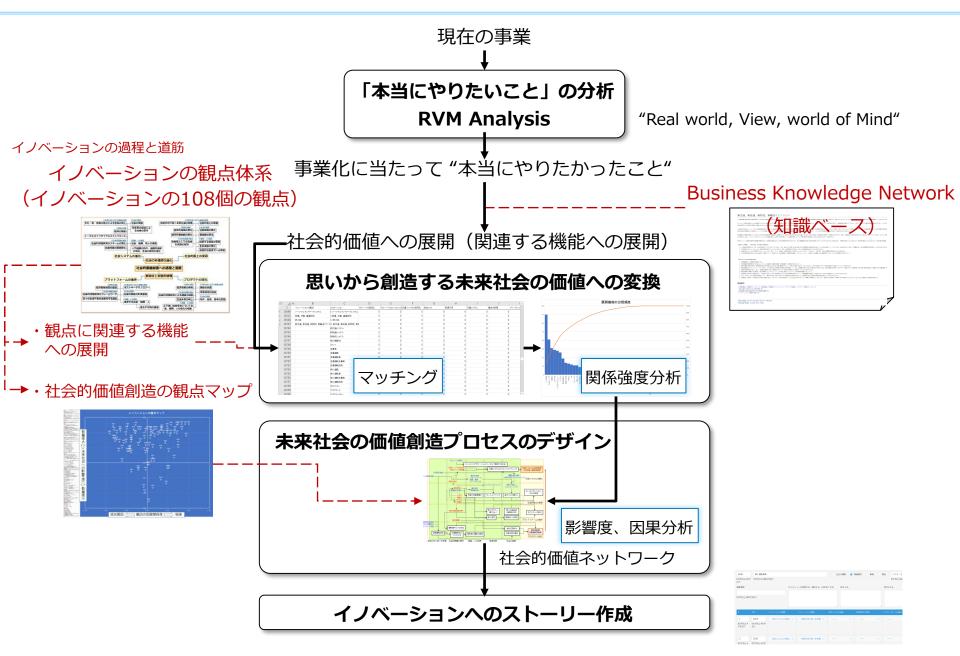
1. 「本当にやりたいこと」の分析

「未来社会の価値創造」に位置づける Innovation Transforming

- 1. イノベーションの観点体系
- 2. Business Knowledge Network (知識ベース)
- 3. 思いから創造する未来社会の価値への変換
- 4. 未来社会の価値創造プロセスのデザイン(社会的価値ネットワーク分析)
- 5. イノベーションへのストーリー作成支援アプリ

基本コンセプトを実現するツール





(新サービスの流れ)



- 1. 時代背景と基本コンセプト
- 2. 基本コンセプトを実現するツール
 - A) 「本当にやりたいこと」の分析
 - B) イノベーションの観点体系
 - C) Business Knowledge Network (知識ベース)
 - D) 思いから創造する未来社会の価値への変換
 - E) 未来社会の価値創造プロセスのデザイン(社会的価値ネットワーク分析)
 - F) イノベーションへのストーリー作成支援アプリ
 - 3. 特徵
 - 4. メリット



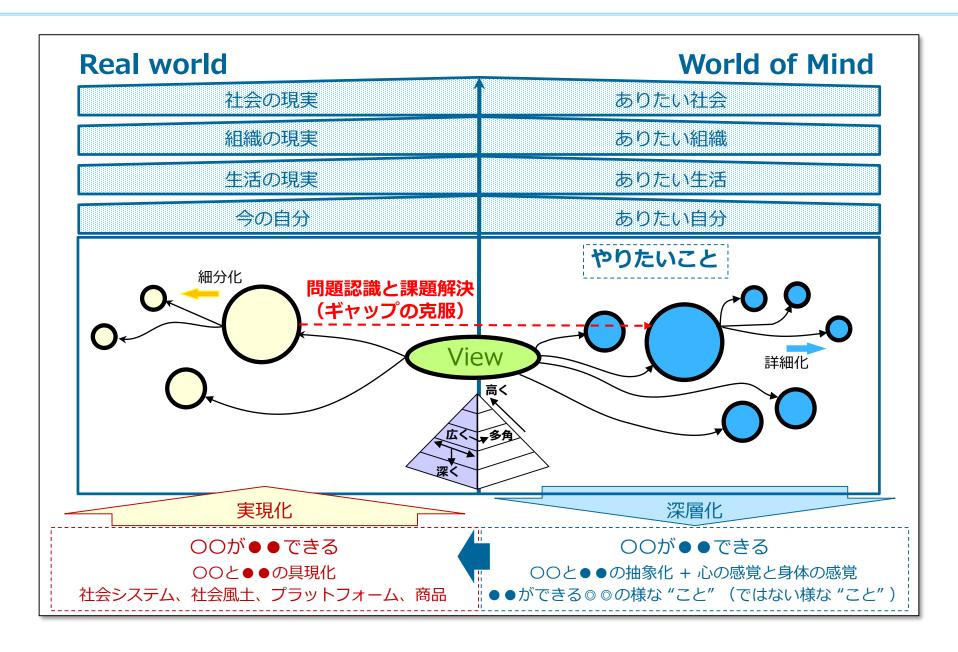
影響力のある「本当にやりたいこと」の条件

- 1. 単なる "キャッチコピー" ではないこと
- 2.誰もが「私もやりたいと思う」(共感)こと
- 3. 行動が内発的に湧き起こりうること
- 4.目的思考によって創発し協創しうること

- 自分の「やりたいこと」が現実の仕事になっているのかギャップ分析を行う
- もし、そこにギャップがあれば、問題として認識され解決すべき課題が見え てくる
- また、未来社会に視座した価値創造の視点から思考することで、目的思考で 課題を捉えることができるようになる

R V M分析 "Real world - View - world of Mind"



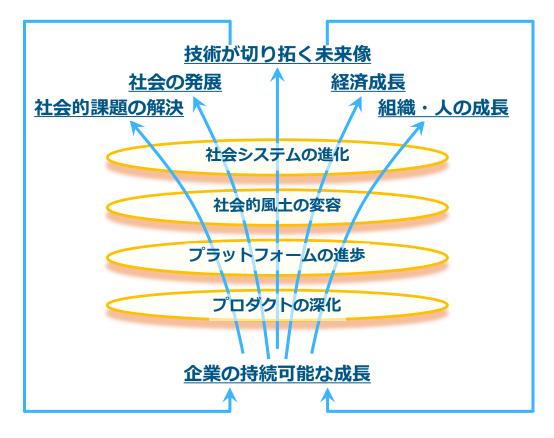




- 1. 時代背景と基本コンセプト
- 2. 基本コンセプトを実現するツール
 - A) 「本当にやりたいこと」の分析
- ▶ B) イノベーションの観点体系
 - C) Business Knowledge Network (知識ベース)
 - D) 思いから創造する未来社会の価値への変換
 - E) 未来社会の価値創造プロセスのデザイン(社会的価値ネットワーク分析)
 - F) イノベーションへのストーリー作成支援アプリ
- 3. 特徵
- 4. メリット

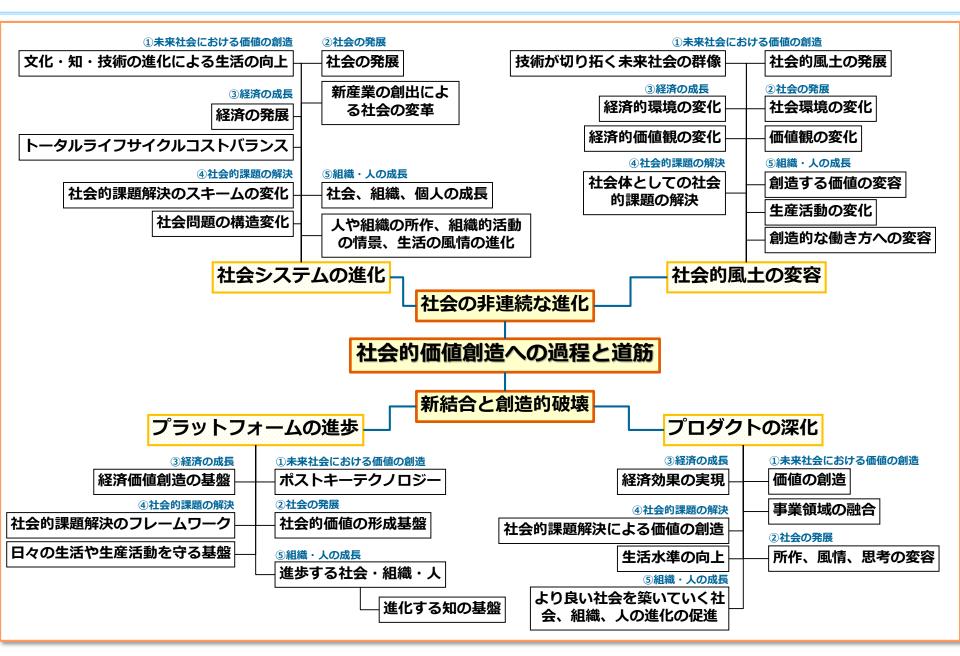


- ◆ 未来社会に向けて価値を創造していくための社会的価値創造の過程と道筋を描いたマップである。このマップには108個の観点が示されている
 - 『社会的価値創造の過程』は [未来社会に向けた価値の創造] [社会の発展] [経済の成長] [社会的課題の解決] [人・組織の成長] の夫々のテーマごとに展開されていく
 - 『社会的価値創造への道筋』は [社会システムの進化] [社会的風土の変容] [プラットフォームの進歩] [プロダクトの深化] の夫々の段階を経て社会に普及し生活の中に浸透していく



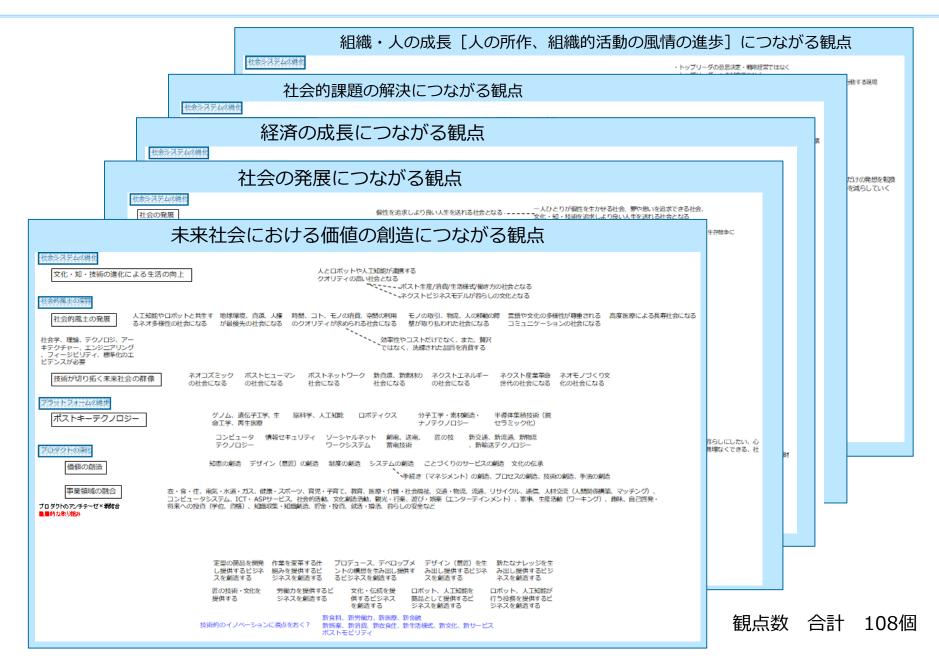
イノベーションの観点体系





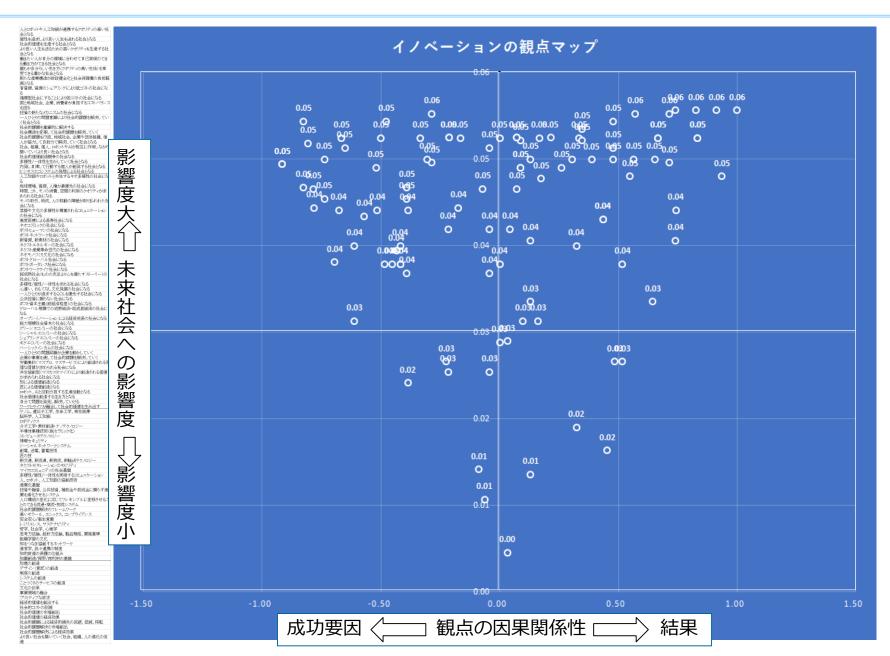
イノベーションの観点体系 (詳細)





社会的価値創造の観点マップ







- 1. 時代背景と基本コンセプト
- 2. 基本コンセプトを実現するツール
 - A) 「本当にやりたいこと」の分析
 - B) イノベーションの観点体系
- ▶ C) Business Knowledge Network(知識ベース)
 - D) 思いから創造する未来社会の価値への変換
 - E) 未来社会の価値創造プロセスのデザイン(社会的価値ネットワーク分析)
 - F) イノベーションへのストーリー作成支援アプリ
- 3. 特徵
- 4. メリット





- イノベーションの108個の観点について、社会の趨勢や技術革新の動向に基づいて、下記内容が示されている。
 - 論点
 - 認識すべき課題(時代背景、社会問題と背景要因)
 - 未来社会における社会的価値の創造
- この知識ベースを参照することにより、未来社会の価値を創造してい く上で考えなければならないことのヒントを得ることができる。

Business Knowledge Network(知識ベース)へのリンク

Business Knowledge Network(知識ベース) 記載例



イノベーションへの過程と道筋一覧

目次 [非表示]

- 1 社会システムの進化に関するイノベーションへの過程と道筋一覧
 - 1.1 未来社会における価値の創造につながるテーマ
 - 1.2 社会の発展につながるテーマ
 - 1.3 経済の成長につながるテーマ
 - 1.4 社会的課題の解決につながるテーマ
 - 1.5 組織・人の成長 [人の所作、組織的活動の風情の進歩] につながるテーマ
- 2 社会的風土の変容に関するイノベーションへの過程と道筋一覧
 - 2.1 未来社会における価値の創造につながるテーマ
 - 2.2 社会の発展につながるテーマ
 - 2.3 経済の成長につながるテーマ
 - 2.4 社会的課題の解決につながるテーマ
 - 2.5 組織・人の成長 [人の所作、組織的活動の風情の進歩] につながるテーマ
- 3 プラットフォームの進歩に関するイノベーションへの過程と道筋一覧
 - 3.1 未来社会における価値の創造につながるテーマ
 - 3.2 社会の発展につながるテーマ
 - 3.3 経済の成長につながるテーマ
 - 3.4 社会的課題の解決につながるテーマ
 - 3.5 組織・人の成長 [人の所作、組織的活動の風情の進歩] につながるテーマ
- 4 プロダクトの深化に関するイノベーションへの過程と道筋一覧
 - 4.1 未来社会における価値の創造につながるテーマ
 - 4.2 社会の発展につながるテーマ
 - 4.3 経済の成長につながるテーマ 4.4 社会的課題の解決につながるテーマ
 - 4.5 組織・人の成長 [人の所作、組織的活動の風情の進歩] につながるテーマ

組織・人の成長 [人の所作、組織的活動の風情の進歩] につながるテーマ [編集]

【創造する価値の変容】

- 1. 労働集約(マスプロ、マスサービス)により創造される安価な価値が求められる社会になる
- 2. 共生協創型(マスカスタマイズ)により創造される価値が求められる社会になる

【生産活動の変容】

- 1. 知による価値創造となる
- 2. 匠による価値創造となる
- 3. ロボット、AIと役割分担する生産活動となる

【創造的な働き方への変容】

- 1. 社会価値を創造する生き方となる
- 2. 自分で問題を発見し解決していける
- 3. ワークとライフが融合して社会的価値を生み出す

プラットフォームの進歩に関するイノベーションへの過程と道筋一覧

未来社会における価値の創造につながるテーマ [編集]

【ポストキーテクノロジー】

- 1. ゲノム、遺伝子工学、生命工学、再生医療
- 2. 脳科学、人工知能
- 3. ロボティクス
- 4. 分子工学・素材創造・ナノテクノロジー
- 5. 半導体集積技術 (脱セラミック化)
- 6. コンピュータテクノロジー
- 7. 情報セキュリティ
- 8. ソーシャルネットワークシステム
- 9. 創電、送電、蓄電技術
- 10. 匠の技
- 11. 新交通、新流通、新物流、新輸送テクノロジー

社会の発展につながるテーマ [編集]

【社会的価値の形成基盤】

- 1. ネクストゼネレーションのモビリティ
- 2. マイクロコミュニティの社会基盤
- 3. 多様性/個性/一体性を実現するコミュニケーション
- 4. 人、ロボット、人工知能の協創技術

経済の成長につながるテーマ [編集]



Business Knowledge Network(知識ベース) 記載例

新交通、新流通、新物流、新輸送テクノロジー

人や物の移動手段に関する技術革新は、社会のあり様を大きく変化させてきた。大量生産・大量消費の時代に実現された人の大量輸送や高速輸送の発想は止まるところを知らず、日本でもリニアモーターカーの建設が進み、世界でも至る所で高速鉄道網がつくられてきている

ネットワーク技術の進化で人々は世界中の人ともつながることができる。VR技術は、直接、その場所に行かなくても、あたかもフェイスツーフェイスで会話している状況を作れるし、疑似体験も可能にしてくれる。しかし、おそらく仕事を効率的に進める上では、こうした!! 技術の活用により定型的な労働から解放された人々は、自分らしい生き方をしたいと考え、色々なところに行くに違いない。

人口減少化が進んでいくと、今以上に過疎地域も増えてこよう。高齢化が進み、そうした地域に住む人の移動手段をどの様に確保するかといった問題も深刻化していくだろう。現在は、まだ、ボランティアで活動する人達が、こうした過疎地域に暮らす人達の移動手段を提供 地方自治体の財政難もより深刻化して、こうした問題に対処していくことも難しくなっていく。自動運転車の開発は若者文化のものではなく、こうした社会問題を解決する手段として検討されなければならない。

地球温暖化の問題も影響しているだろうと思われる異常気象の増加も社会問題である。水害が起きた時に真っ先に問題になるのは、体の不自由な人や高齢者の安全をどう確保するかであり、孤立した過疎地に住む被災者をいち早く助け出すかということである。こうした災害から進めるしかない。そして、今のところ、こうした活動は救助へリに頼らざるを得ない。人の輸送は難しくとも、物資の輸送できめ細かく対応できるのはドローン技術だろう。

老朽化していく交通網の維持や再整備の問題もある。財政難の問題に加え人手不足問題が深刻化する中では、無人運転車両の普及と浸透を本格化させていかなければならない状況にある。平常時の物流システムのあり方、発災時の物流システムのあり方、発災時の物流システムのあり方、発災時の物流システムのあり方、発災時の物流システムのあり方、発災時の物流システムのあり方、発災時の物流システムのあり方、発過性の再整備がある。

【認識すべき課題】 (時代背景、社会問題と背景要因)

- 1. 21世紀型の経営においては、社会の多様なニーズに応えていくために、また、個々夫々に関わりのある様々な社会的課題を多様な視点を持っている人達が解決していくことになる。企業も社会の一員として事業を通して社会的課題の解決を図っていかなければならない
- 2. 21世紀型のブラットフォームは、知恵の創造に結びつくシステムであり、また、知恵を提供するロボットや人工知能が装備されていなければならない。
- 3. 成熟化社会となった21世紀型のブラットフォームは、単に、ニーズ、経済性、利便性を追求すれば良いというだけでなく、それ以上に、①公益性、②社会的課題の解決が求められる様になる。
- 4. 21世紀型産業は交通システムを基盤して発展していく。具体的には、電気自動車、燃料電池自動車、リニアモーターカー、磁気浮上式自動車、無人運転車両、ロボットカー等の開発が求められていく。

【未来における社会的価値の創造】

- 1. 自働車産業は、経済発展の根幹である。
- 2. 地球温暖化問題を解決するためには、ガソリン自動車から電気自動車、燃料電池車への転換が求められていく。
- 3. 電気自動車の電気の供給、燃料電池車の水素の生成のために新たな電力需要が生じる。この電力を如何に賄うか、特にこのために、再生可能エネルギーの活用を優先的に促進していくことが求められる。
- 4. 電気自動車はオープンイノベーションであり、コア技術のない新興国や発展途上国の産業として、また、異業種の資本力のある企業の参入も考えられる。電気自動車は当初からコモディティ製品である。価格競争力のある高い価値を装備した自動車(無人運転車両)等
- 過疎地や限界集落に住む、特に、自動車の運転ができない高齢者のモビリティを如何に確保するかを解決していかなければならない。
- 6. 電気自動車に蓄電された電気を、電力の需給バランスをとっていく上で如何に活用していくかという技術開発が重要となっていく。
- 7. 物流網は生活を支える動脈である。人口減少社会化にともない物流業における人手不足問題が深刻化していく。自動運転車の開発により物流における人手不足を解消させていかなければならない。
- 8. グローバル化とともに観光客が増加していく。都市部ではなく地方におけるコト体験旅行の充実化のためにも、交通網の充実と安全性の維持を同時に進めていかなければならない。
- 9. 交通網は、風水害、火山噴火等の災害には脆弱である。その一方で、行政や政治家は、すぐには起こる訳でないという事象に予算を割こうとはしない。被災地への物流等、災害時における物流システムのレジリエンスをどう確保するか解決が急がれる。

関連事項

- 経営戦略論、経営戦略フレームワーク、事業戦略論、事業戦略フレームワーク、マーケティング戦略論、マーケティング戦略フレームワーク
- 顧客に関する視点から捉えた競争戦略一覧
- 組織問題の詳細と組織変革に向けた組織改革戦略一覧
- イノベーションへの過程と道筋一覧

【Top page】 Business Knowledge Network - 経営の視点

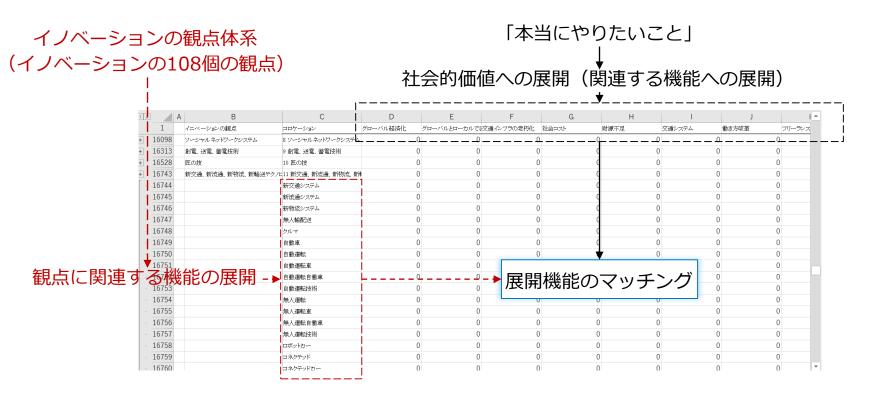
【Chenge View】 社会問題、暮らしの問題



- 1. 時代背景と基本コンセプト
- 2. 基本コンセプトを実現するツール
 - A) 「本当にやりたいこと」の分析
 - B) イノベーションの観点体系
 - C) Business Knowledge Network (知識ベース)
- D) 思いから創造する未来社会の価値への変換
 - E) 未来社会の価値創造プロセスのデザイン(社会的価値ネットワーク分析)
 - F) イノベーションへのストーリー作成支援アプリ
- 3. 特徵
- 4. メリット

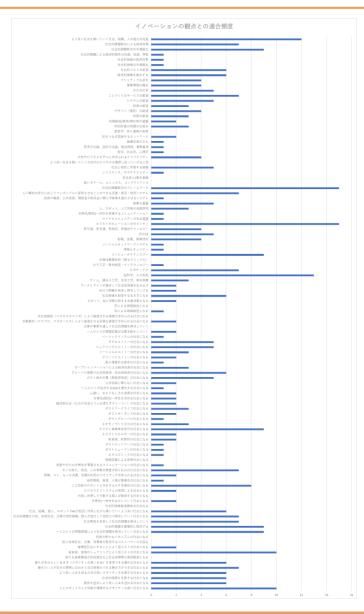


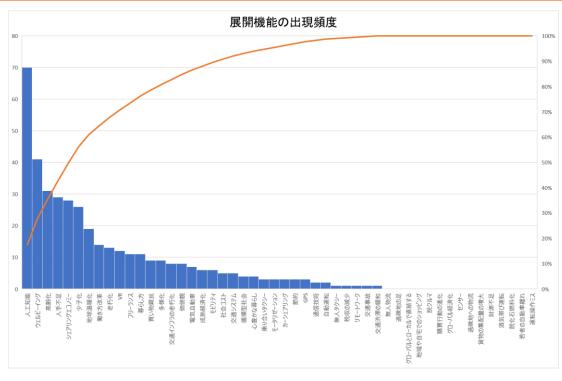
- 「本当にやりたいこと」に込められた思いを「創造すべき未来社会の 価値」に変換する創造的思考のためのツールである
 - Business Knowledge Network (知識ベース) を参考にしながらReal world
 View world of Mind Analysis で導き出した「本当にやりたいこと」の社会的価値を深掘りしながらイノベーションの108個の観点に位置づけていく





「本当にやりたいこと」をイノベーションの108個の観点に位置づける





展開機能間の関係強度分析

「本当にやりたいこと」の社会的価値(展開機能)とイノベーションの108個の観点に関連する社会的価値(展開機能)の一致度(関係強度)を分析する

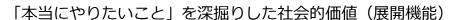


- 1. 時代背景と基本コンセプト
- 2. 基本コンセプトを実現するツール
 - A) 「本当にやりたいこと」の分析
 - B) イノベーションの観点体系
 - C) Business Knowledge Network (知識ベース)
 - D) 思いから創造する未来社会の価値への変換
- ► E) 未来社会の価値創造プロセスのデザイン(社会的価値ネットワーク分析)
 - F) イノベーションへのストーリー作成支援アプリ
- 3. 特徵
- 4. メリット

₩Clement

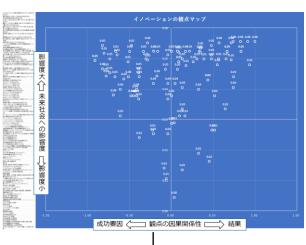
未来社会の価値創造プロセスのデザイン(社会的価値ネットワーク分析)

イノベーションの108個の観点(社会的価値に展開された機能)に位置づけられた「本当に やりたいこと」を深掘りした社会的価値(展開機能)は社会的価値創造の観点マップによっ て「未来社会の価値創造プロセス」(社会的価値ネットワーク)に置き換えられていく





社会的価値創造の観点マップ



「未来社会の価値創造プロセス」(社会的価値ネットワーク)



未来社会の価値創造プロセスのデザインイメージ

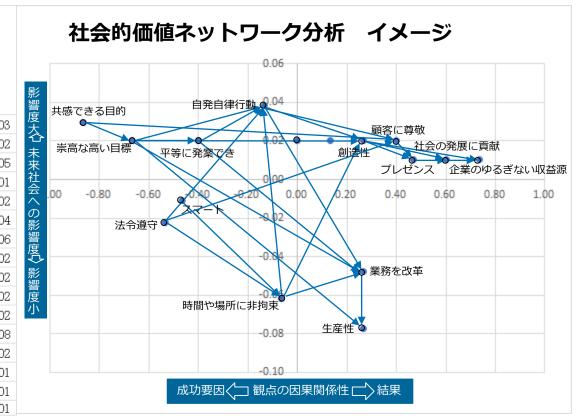




企業価値を高める組織イノベーションをテーマにした場合のイメージ(例)

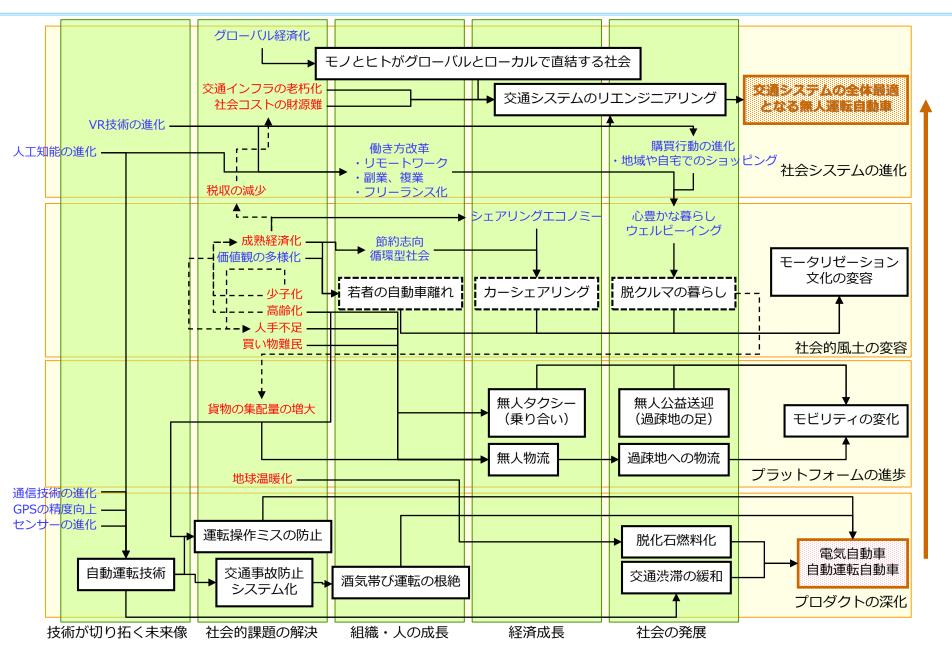
社会的価値創造を思考する観点間の原因と結果の関係性を相対的に評価し、因果関係の数で未来社会への影響度を評価化する。

	因果関係性	影響度
共感できる目的を共有する	-0.87	0.03
崇高な高い目標を掲げて目指している	-0.67	0.02
業務を改革し効率を高めコストを削減する	0.27	-0.05
スマートな職場環境にする	-0.47	-0.01
平等に発案でき、立場によらず意見が尊重され	-0.40	0.02
自発して自律行動できる	-0.13	0.04
時間や場所に拘束されない働き方にする	-0.07	-0.06
法令遵守が定着している	-0.53	-0.02
社会の中でリードできる組織として学習し成長し	0.00	0.02
顧客に尊敬される商品を生み出す	0.40	0.02
従業員が誇りを持つ	0.13	0.02
組織の生産性が高い	0.27	-0.08
組織の創造性が高い	0.27	0.02
企業の社会的プレゼンスを高める	0.47	0.01
社会の発展に貢献していく意志が社会をリードし	0.60	0.01
企業のゆるぎない収益源を確立する	0.73	0.01



₩Clement

未来社会の価値創造プロセスのデザイン例(社会的価値ネットワーク例)





- 1. 時代背景と基本コンセプト
- 2. 基本コンセプトを実現するツール
 - A) 「本当にやりたいこと」の分析
 - B) イノベーションの観点体系
 - C) Business Knowledge Network (知識ベース)
 - D) 思いから創造する未来社会の価値への変換
 - E) 未来社会の価値創造プロセスのデザイン(社会的価値ネットワーク分析)
- F) イノベーションへのストーリー作成支援アプリ
- 3. 特徴
- 4. メリット

イノベーションへのストーリー作成支援アプリ



◆ 社会的価値ネットワークによって「未来社会の価値創造プロセス」に 置き換えられた「本当にやりたいこと」「社会的価値」をストーリー として記述していくツールである。



イノベーションへのストーリー作成支援アプリ (2)





₩Clement

イノベーションへのストーリー作成支援アプリ (3)



₩Clement

イノベーションへのストーリー作成支援アプリ (4)



イノベーションへのストーリー作成支援アプリ (5)







- 1. 時代背景と基本コンセプト
- 2. 基本コンセプトを実現するツール
 - A) 「本当にやりたいこと」の分析
 - B) イノベーションの観点体系
 - C) Business Knowledge Network (知識ベース)
 - D) 思いから創造する未来社会の価値への変換
 - E) 未来社会の価値創造プロセスのデザイン(社会的価値ネットワーク分析)
 - F) イノベーションへのストーリー作成支援アプリ
- 3. 特徴
 - 4. メリット



- 1. 「本当にやりたいこと」は無意識にある心の奥底にあり、「知識」や「自我」に邪魔されて表に出てこない
- 2. 目の前にあることに忙殺されていると、その先にある「未来社会」は思考停止状態に陥って考えることがでない
- 3. 「本当にやりたいこと」を「社会的価値」に変換し「未来社会の価値創造」に結びつけていく思考過程は、個々人の構想力や創造力、想像力(想像しうる範囲)にも依存しており、簡単にできるものではない
 - 本サービスはこの3つの思考の壁をブレークスルーするものである
 - 当社は「誰もが心ときめかせて未来社会を語っている」ようになることを 目指している
 - 将来、人工知能が人間の仕事を奪うとも言われているが、構想力や創造力を発揮できる思考の仕掛けをつくることによって、人間と人工知能が共生し協創していけるようになると期待される



- 1. 時代背景と基本コンセプト
- 2. 基本コンセプトを実現するツール
 - A) 「本当にやりたいこと」の分析
 - B) イノベーションの観点体系
 - C) Business Knowledge Network (知識ベース)
 - D) 思いから創造する未来社会の価値への変換
 - E) 未来社会の価値創造プロセスのデザイン(社会的価値ネットワーク分析)
 - F) イノベーションへのストーリー作成支援アプリ
- 3. 特徴
- 4. メリット



1. 「本当にやりたいこと」と「市場性と収益性のあるビジネス」の間には大きな壁がある

「やりたいこと」は企業の差別化価値であり、「やりたいこと」を共通の目的として活動している組織は競争優位性の源泉とも言える。本サービスにより、「やりたいこと」を明確化し共通認識化することができる

2. 「未来社会の価値創造」と「市場性と収益性のあるビジネス」との間にも大きな壁がある

社会的価値創造の競争時代に向けて、まずは、「未来社会の価値創造」によって企業のブランド価値を高め、それによって「市場性と収益性のあるビジネス」としていくことができる と期待できる

3. 社会的価値創造の競争時代にあって、「企業が持続可能な成長」を遂げていくためには、競合 他社が実現できていないストーリーで「社会の持続可能な発展」を実現し続けていかなければ ならない

「未来社会」に視座した視点から「未来社会の持続可能な発展」のストーリーを描いていく ため、「企業が未来においても持続可能な成長」を目指していくことができる



ご清聴ありがとうございました

連絡先 <u>info@clem.co.jp</u>

サステナブル・イノベーションズ株式会社 代表取締役社長 池邉純一